

＝ 備えの時から・・・ ＝

4月よりスタートした各県本部・県センターの皆さんとのふれあい対話集会、私が担当する分はすべて終了した。皆さんの率直な思いを聞き、そして、ひざを交えた懇談の場では、ごく普通に方言が飛び交う中で語り合うことができた。また、この間、政策実現活動研修会への対応やオルグも行ってきた。いただいた意見に身を引き締めつつ、個々の取り組みを精査し一つ一つ確実な結果を出していかなければならないと思っても新たにしたりしたところである。

各地方行脚の際、場所によっては、JRの在来線やバス移動を余儀なくされる地域もある。そうした移動時、興味をひくのが電車の中の出来事や、あらゆるジャンルの標語・キャッチコピーの数々、思いも込めいくつか紹介したい。

組合活動の一丁目一番地は、働く仲間の安全と健康。私たちの職場では、「ご安全に」の挨拶でわが身を守り・仲間を守る行動を実践しているが、電車やバスの運転士には今一つ、大切な乗客の安全を守る責務がある。佐賀県の伊万里からの移動で乗ったJR佐世保線、徹底した指差呼称と確認に見入った。乗客の一人がその姿を見て、『新米やろう…』とつぶやいていたが、どう見ても中堅どころ。『ドアよし、信号よし、出発進行、つぎ肥前山口…』素晴らしい、見習わねば…。

そして、感動の場面は東京にもあった。サービス業や運輸、私たちが働く、ものづくりなど、すべての産業に大きく影響してくるであろう、IoT、AI、ロボティクス(Robotics)の発展による第4次産業革命といわれる社会構造や働き方の変化。しかし、どんなに時代が変わろうと「真ん中に人を据える」ことは労働運動の原点である。地下鉄の壁に貼られていた一言、『AIには任せられない。愛で動かすんだSLってやつは。(Tobu鉄道)』、なんか熱いものがこみあげてくるのは私だけだろうか？

気候変動も私たちの生活に大きな影響を及ぼしてきている。昨年7月の広島、岡山、愛媛を中心に甚大な被害をもたらした豪雨、そのあとの台風上陸、また、いつどこで発生するかわからない地震大国日本。わが身を守り、家族、仲間を守る防災・減災は基幹労連の大きな政策の一つでもあるが、福岡の折尾駅から見えたビルの看板、『起こすな人災、備えよ天災』、梅雨入り間近、今一度、点検、備えを怠りなく。

その梅雨入り前の5月下旬は真夏を思わせる暑さが続いた。北海道で39.5度を観測、夏の到来が恐ろしくさへ感じる。「暑熱順化(しょねつじゅんか)」という言葉がある。これは暑い夏に備え、身体が次第に暑さに慣れることをいう。発汗は体温調節の一つであるが、体の準備ができないまま猛暑となるこの時期は十分な注意が必要である。個々人の体調管理も含め、皆で気配りしながら夏に備えてほしい。

最後に、地下鉄のテレビ画面に見つけたお笑いコンビ博多華丸・大吉出演のCM。『低い低いと思って高いのが、尿酸値とプライドやけん。』、尿酸値はよろしくないが、プライドは時に必要。インバウンド・訪日外国人による経済の活性化も良いが、資源の乏しいわが国経済を支えてきたのはものづくり産業である。その発展が、これからもわが国経済・社会の持続的発展を支える原動力。そこに働く私たちの仲間は、そのことに誇りと気概を持って今日も額に汗して働いている。7月の参議院議員選挙は、まさにその延長線上でもある。今年の暑い時期から進めてきた職場理解活動、そして冬からこの春にかけて展開してきた支援者カード、準備は整えたはず。準備の足らざる組織はその補いも含め、いよいよ本番突入に向けた行動開始である。ものづくり産別・基幹労連、それぞれの組織のプライドをかけた戦いに挑む時。厳しさは承知のうえで目的の完遂に向け心ひとつに実践あるのみ。

ご安全に

2019年6月3日  
日本基幹産業労働組合連合会  
中央執行委員長 神田 健一